

(8) 学校実習・ボランティア支援室**① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

学校実習・ボランティア支援室は、教育実習、学校実習及び学生の各種ボランティア活動を円滑に実施するための支援・危機管理等を行うことを目的として設置されている。

イ 組織の構成及び構成員等

学校実習・ボランティア支援室は、室長、特任教員、兼務教員、学長が指名した附属幼稚園副園長、教育実習委員会委員長、学校実習委員会委員長、その他必要な職員で組織し、計 20 人で構成されている。

② 運営・活動の状況**ア 委員会等の開催状況**

令和 4 年度においては、以下のとおり 2 回開催した。

- ・ 第 1 回 令和 4 年 4 月 7 日（木）
- ・ 第 2 回 令和 5 年 3 月 13 日（月）

イ 審議された主な事項

令和 4 年度の主な審議事項は、「ボランティア体験」、「学校ボランティア A (学校支援体験)」、「学校ボランティア B (学校支援体験)」及び「総合インターンシップ」に係る令和 4 年度実施計画並びにそれら授業の履修状況等についてである。

ウ 重点的に取組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響をうけることなく、授業やボランティアを実施することができた。特に受入機関からのボランティアの依頼が急増したため、従来の対面での説明会や指導等に加えてメールや classroom を活用し、感染症対策の徹底に努めた。またボランティア関連の授業では、受入機関の担当者を大学に招いて講義や実技を行っていただき、学生のボランティアに対する意欲を高める一役を担うことになった。

③ 優れた点及び今後の課題等

学部 1 年選択「ボランティア体験」では、授業内でボランティアの模擬体験を行ったり、受入機関から職員の方を講師として招き、体験活動を行い学生のボランティアへの意欲を喚起した。また、Jamboard を取り入れて、活動の振り返りや意見交換を行った。Jamboard の活用により、感染症対策につながるとともに、意見交換の様子をリアルタイムで共有することができ、多種多様な意見を聞ける好機会となった。

今後も学生の積極的な参加を促進するため、メールやオンライン（classroom）、ちらし等を活用し、ボランティア体験に対する広報活動を行っていく。

学部 2 年必修「学校ボランティア A」では、受入校 5 校の担当者と連携を密にすることで、本事業に対し協力的な対応を得た。また、1 月の「履修発表会」は 3 つの教室に分かれて、Jamboard を使い意見交換を行った。Jamboard を使った授業は実地 II など何度か体験しているので、学生もスムーズに対応することができた。トピックになる言葉を書き込み、エピソードを話すという Jamboard を使ったスタイルは効果的で今後も継続して行っていく。

学部 3 年選択「学校ボランティア B」では、特任教員が教育実習の際に小学校を訪問するたびに、学

校ボランティアBと教育ボランティアについて、広報資料を使って説明を行った。その結果、多数の小学校からボランティアBに係る学生派遣要請があった。学生も実習校の担当者から「また学校にきてほしい」という声かけをしていただいたことで、学校ボランティアBの履修を希望する学生が増加した。授業では、小学校で特別支援教育に携わっている教員から講義をしていただき、上越市の現状や新しい情報を取り入れることができるように努めた。また、2校に渡って活動を行った学生が増えたが、学校サイドとしてはもっと活動日や時間を増やしてもらいたかったという意見があった。学生への負担感が増えないよう配慮することや、学生にとって有意義な活動となるようさらに小学校へお願いすることが検討課題としてあげられる。

学部4年選択「総合インターンシップ」を履修した学生は、教員としての資質向上に向けて非常に意欲的で、熱心に取り組んだ。今後は、本講座に対して、学内の教員及び学生への理解をさらに進めていく必要があり、特に学部1年生から本講座の意義と重要性を広報し、履修学生数の増加を目指していきたい。

授業外のボランティアとして、教育ボランティア、社会教育ボランティア、その他のボランティア等がある。コロナ禍ではあったが、ボランティアの依頼が着実に増えてきている。上越教育大学の学生ボランティアの有用性に対する認知が進むにつれ、学校などの教育機関だけでなく、地域での行事や活動、行政主催による各種イベントなどのサポートスタッフとして、学生の力が期待されている。

本学ならではの特筆すべきボランティア活動を通して、学生が教員として求められる社会性やコミュニケーション能力を高めていくという理念を大切に、今後もボランティア活動の更なる充実を企図していく。